

埋蔵文化財調査室とは

大阪大学では、1983年に豊中キャンパスの工事中に弥生時代の集落跡が発見されたことを契機とし、本学において大学施設の整備充実と文化財の保護活用を調和させようという機運が高まりました。そして、1985年に埋蔵文化財調査委員会が発足し、埋蔵文化財調査室が調査にあたることとなりました。以後、30年近く埋蔵文化財調査室は、大阪大学で数多く実施される工事に際し、遺跡の調査にたずさわってきました。

大阪大学のキャンパス内には、実は多くの遺跡が埋まっています。豊中キャンパスは、その全域が待兼山遺跡として国の遺跡台帳に登録されており、2000年近く連綿と集落や墓域として利用されてきたことが判明しています。また、大阪市北区にある中之島センター付近は江戸時代の蔵屋敷が建ち並んだ場所として知られ、中之島センター造営の折には、久留米藩蔵屋敷の発掘調査を実施しました。さらに近年の調査成果によって、吹田キャンパスの地下にも埋蔵文化財が包蔵されていることがわかり、山田丘遺跡と名付けられました。吹田キャンパスで、さらなる発見があるかもしれません。

こうした遺跡やそこから出土する遺物は、国民の共有財産として守り、活用していく義務があります。埋蔵文化財調査委員会は、文化財保護法の規定に基づき、開発により常に破壊の危機に瀕している遺跡の保護と建物計画などの調整を行っています。そして、埋蔵文化財調査室は、遺跡の調査・研究、出土した遺物の分析や報告、博物館展示や市民向け講座、学外授業といった活用といった業務を、昼夜問わず、実施しています。



総合学術博物館修学館北地点での発掘調査で火葬墓を検出。人骨の取り上げをおこなう。



吹田キャンパス、サイバーメディアセンター新棟建設工事に先立ち、埋蔵文化財の有無を確認。



待兼山5号墳調査で大量の埴輪出土により発掘調査は夜も続く。

待兼山遺跡での新発見

2013年夏の暑い日、阪大坂下の駐輪場整備にともなって実施した試掘調査では、待兼山遺跡にかんする新しい情報を得ることができました。調査区4と名付けた調査区ではアスファルトをめくると、すぐその下に骨の小片を混じる黒い炭層が検出されました。この炭層は、2005年の発掘調査で発見された中世の火葬墓と関連する遺構と考えられ、火葬に伴う灰や骨、銭、土器片などをかき集めたものです。

調査を進めた結果、数百点にのぼる多量の遺物が発見されています。出土遺物は、土師器の皿、陶磁器、江戸時代の瓦、土人形、銭（寛永通宝等）、おそらく人骨と思われる大量の骨細片、不明金属器であり、中世のみならず、近世代に位置づけられるものを含みます。待兼山山麓における火葬墓は中世から近世にかけて長期間造営された可能性が浮上してきました。

また、調査区2では6世紀代の須恵器の破片も発見され、付近に未知の古墳が存在することが推測できます。



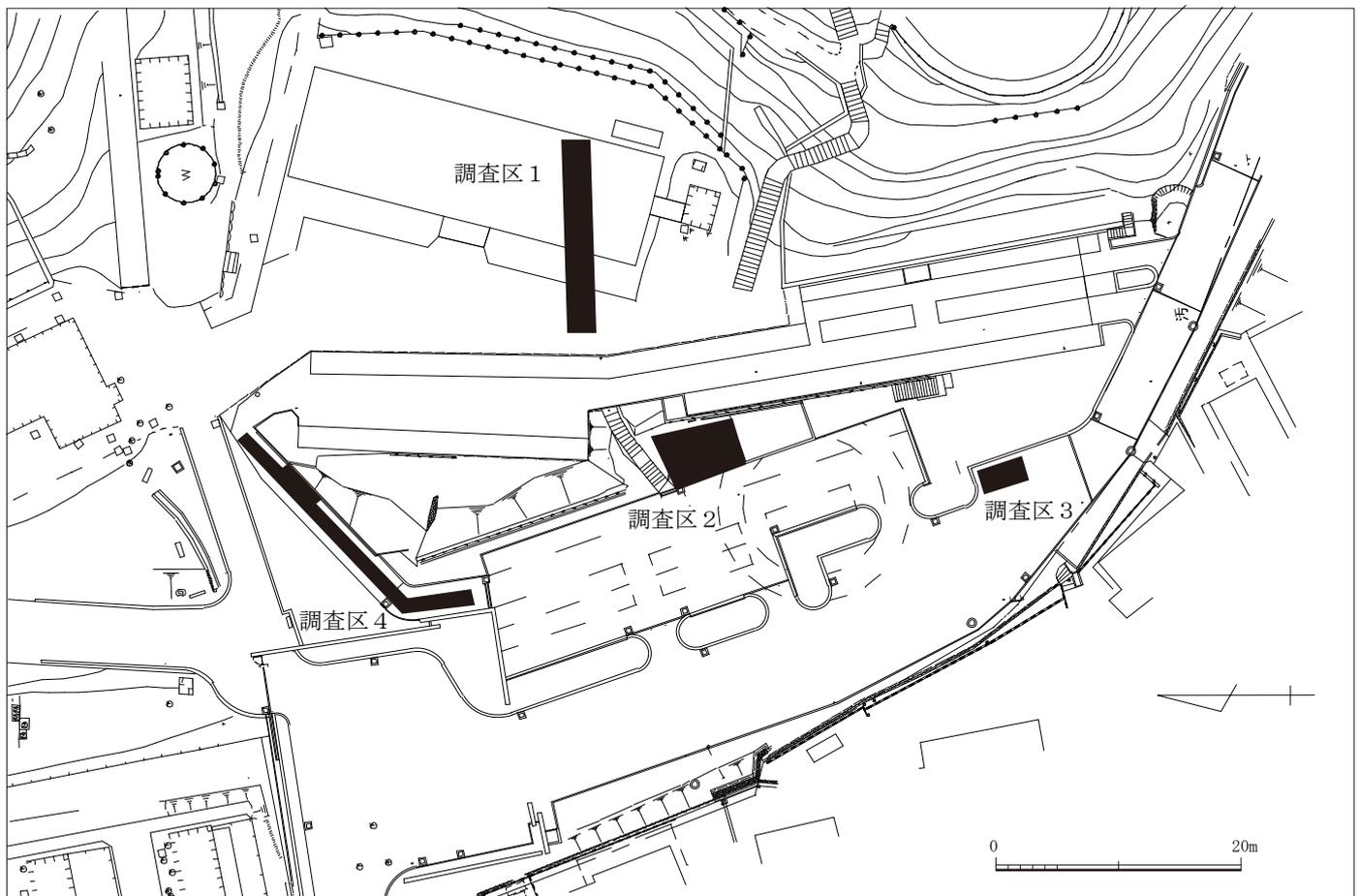
遺構検出作業風景(調査区4)



須恵器片(6世紀)を検出



出土した中世・近世の銭(調査区2)



待兼山遺跡 MAP



豊中キャンパス

附属図書館

1. 総合図書館

学部・大学院

2. 文学部・文学研究科
3. 法学部・法学研究科・高等司法研究科
4. 経済学部・経済学研究科
5. 理学部・理学研究科
6. 基礎工学部・基礎工学研究科
7. 言語文化研究科
8. 国際公共政策研究科
9. 大学教育実践センター 共通教育本館 (イ号館)
10. 大学教育実践センター 管理講義棟
11. 大学教育実践センター 共通教育講義棟 (ロ号館)

全国共同利用施設・

学内共同教育研究施設

12. サイバーメディアセンター
13. サイバーメディアセンター
14. 科学教育機器リノベーションセンター
15. 低温センター
16. ラジオアイソトープ総合センター分館
17. 太陽エネルギー化学研究センター
18. 極限量子科学研究センター
28. 総合学術博物館
40. 金融・保険教育研究センター
41. コミュニケーションデザイン・センター
42. 知的財産センター

その他の施設

19. 21世紀懐徳堂
20. 学生交流棟 (豊中学生センター)
21. 学生会館
22. 明道館 (サークル棟)
23. 清明寮 (学生寮)
24. 刀根山寮 (学生寮)
25. 国際交流会館
26. 保健センター豊中本室
27. Σホール (基礎工学部国際棟)
29. 豊中阪大内郵便局
39. 健康体育研究棟

スポーツ施設

30. グランド
31. 第一体育館
32. 第二体育館
33. テニスコート
34. プール

福利施設

20. 学生交流棟
35. 待兼山会館
36. 福利センター
37. カフェテリアらふおれ
38. DonDon

○ 古墳

● 窯跡?



待兼山1号墳の副葬品
(『豊中市史』より転載)



待兼山5号墳から出土した埴輪



待兼山遺跡より出土した弥生土器



火葬墓の検出



豊中歴史同好会のみなさんに、総合学術博物館第17回企画展「野中古墳と「倭の五王」の時代」の展示解説を行いました（2014年2月）。



JICA・国立民族学博物館博物館学集中コースの参加者のみなさんとともに総合学術館前にて（2013年7月）。



大阪大学21世紀懐徳堂と大阪ガス株式会社が開講する新しいタイプの講座アカデミッククッキングにて出張講義（2014年3月）。



茨木高校の高校生たちに大阪大学の構内遺跡やキャンパス内から出土した遺物を紹介（2012年11月）。

埋蔵文化財調査室は日々の調査・研究に加え、アウトリーチ活動にも力を注いでいます。市民の考古学に対する興味や関心は高く、埋蔵文化財調査室のもとには、カルチャーセンターが実施する講座、歴史好きの方々が大勢集まる歴史同好会が自主的に実施している研究会での講演依頼や遺跡見学依頼が多く寄せられています。この数年では、ほぼ2、3ヵ月に1回のペースで、市民講座での講演や大阪大学総合学術博物館での構内遺跡出土遺物の解説を引き受けています。

また、毎年、JICA・国立民族学博物館博物館学集中コースの個別研修に協力し、大学における埋蔵文化財保護と調査に関する世界各地の受講生に紹介していることに加え、大阪府立茨木高校の学外授業に対応するなど、文化財の啓発事業の一環として研究機関や学校教育への協力にも活動の幅を広げています。

編集・発行：大阪大学埋蔵文化財調査室（室長 和田章男）

〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5

電話・FAX番号：06-6850-5106

HP: <http://www.let.osaka-u.ac.jp/maibun/index-maibun.htm>